在宅患者の薬の管理のしくみづくり

～「お薬手帳」の活用を考える～

2016
始 動！

保健・医療・福祉分野の連携のしくみづくり“第１弾”として、お薬手帳を活用した「在宅患者の薬の管理のしくみづくり」をすすめます。
これは、専門職種だけでなく、患者やその家族も関わり合った“新たなしくみづくり”として、オール伊賀市で取り組むカタチをめざします。

ステップ１ 【H28～】

患者、市民への啓発

〇医療機関や薬局での、チラシの配布やポスターの掲示、市広報紙等による患者や市民への啓発を行います。

○「お薬手帳」を１冊にまとめることの重要性を訴える啓発を行います。

○市広報紙のほかケーブルテレビ等を活用した啓発を行います。

ステップ２ 【H28～H29】

お薬手帳カバーの作成

〇お薬手帳に「ケアマネジャーの名刺」等が入れられる、伊賀市オリジナルお薬手帳カバーを作成します。

○ケアマネジャーの名刺のほか家族の緊急連絡先などを入れられる仕様とします。
○経費は、介護保険の在宅医療・介護連携推進事業を活用予定

○多職種間で、お薬手帳を活用した患者支援についての情報共有を深めます。

ステップ３ 【H29～】

多職種間での連携のしくみ

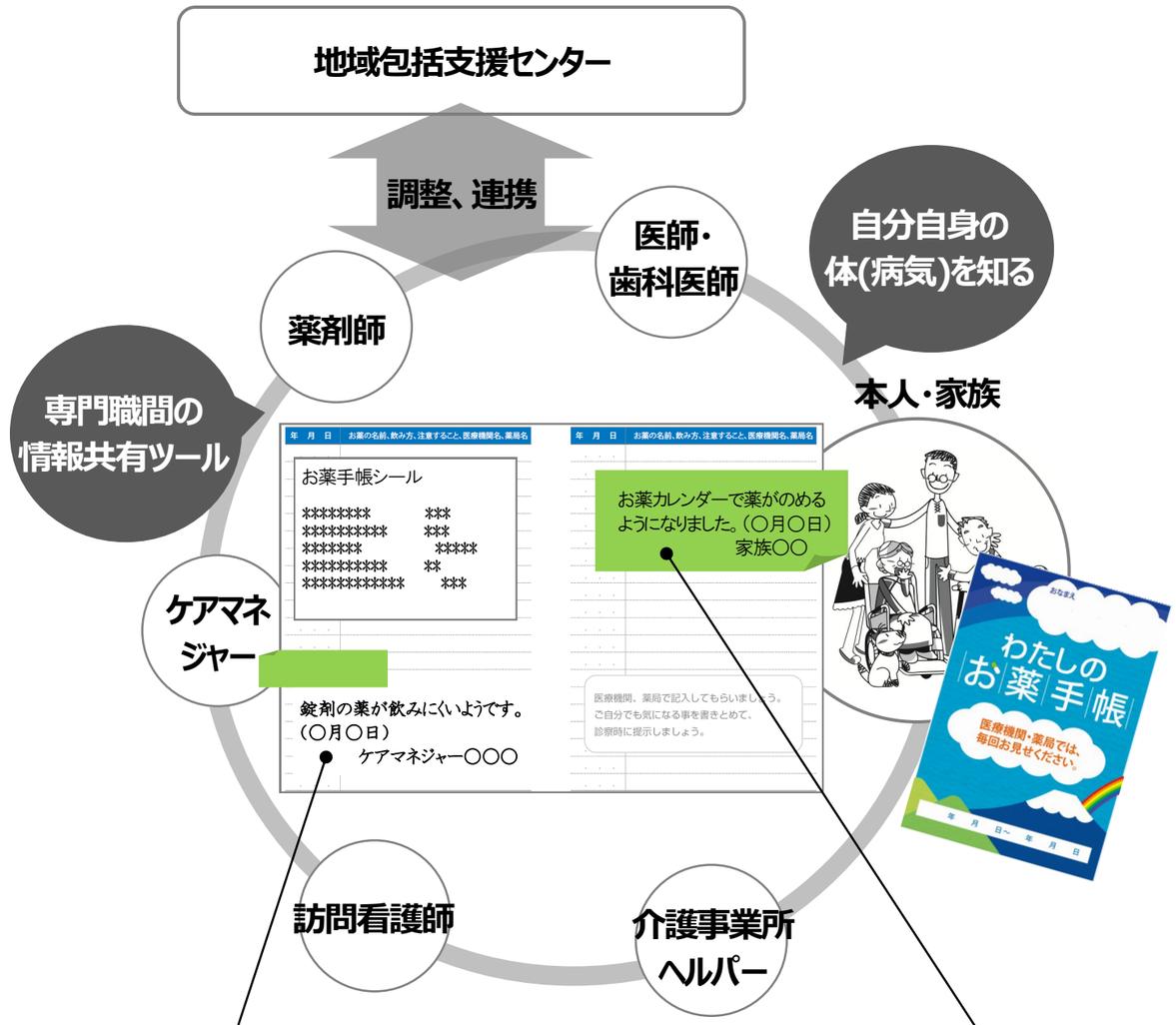
〇専門職だけでなく患者本人や家族もネットワークの一員となった、お薬手帳活用による在宅患者の薬の管理のしくみづくりを実践します。

○お薬手帳を、医師、薬剤師間での情報共有ツールとしていきます。

○お薬手帳を患者支援の「連絡帳」とした活用をめざします。

○患者やその家族も“気づき”等を書いていけるしくみづくりをめざします。

■在宅患者の薬の管理のしくみづくり【イメージ】



〇専門職により、薬に関する情報のみならず、さまざまな“気づき”を付箋に記し、他専門職と共有することをめざす。

⇒多職種連携ツール

〇運用をすすめる中で、患者の家族からの“気づき”等を記し、お薬手帳を連絡ツールとして活用していくことをめざす。

⇒お薬手帳を「連絡手帳」として活用